環境ボランティア活動におけるリーダーシップ・タイプの影響に関する研究

東北大学大学院国際研究文化研究科　学生会員　○胡　亜楠
東北大学大学院国際研究文化研究科　正会員　青木俊明

1. 研究の背景と必要性

「特定非営利活動推進法（H10.12）」の施行後、全国的に様々な分野で非営利活動団体(NPO)の活動が盛んになった。これを受け、市民が身近な環境問題を自ら解決しようとする環境運動も盛んになった。市民の社会貢献に関する実態調査(H27)でも、ボランティア活動の参加者のうち、20.3%が環境保全に興味を持っていることが報告されている。そのため、潜在的には多くの人が環境ボランティア活動に関心を持っていると思われる。

その一方で、全国ボランティア活動実態調査報告書(H24)によれば、活動停止やメンバー減少といった問題に悩む団体が増えている。このような状況を改善または回避するためには、環境ボランティアへの参加意欲や活動継続意図を高めることが重要になる。

環境ボランティアの参加意欲を高める要因の一つにリーダーの存在が考えられる。Hopper & Nielsen (1991)は、リーダーが存在する地域で個人的規範と社会的規範に顕著な変化がみられたことを報告している[1]。さらに、リーダーの存在によって、環境配慮行動の意欲が向上することも述べられている。リーダーのリーダーシップが、組織の雰囲気のみならず、メンバー間の人間関係、信頼感、自己効力感、利得感などにまで影響をもたらすことは、広く経験的にも知られている(Pearce and Sims 2002)[2]。つまり環境ボランティア集団の目的達成やメンバー間の人間関係を良好に保つためには、リーダーのリーダーシップも重要になる。リーダーシップには複数のタイプがあることを踏まえれば、それによってボランティアの集団への帰属意識、参加意欲、継続意図が変わる可能性がある。しかしながら、環境ボランティア活動を題材にリーダーシップの効果を扱った研究はほとんどない。そこで、本研究では、リーダーシップ・タイプが集団への環境ボランティア団体への帰属意識や活動の継続意図に与える影響を明らかにすることを目的とする。その上で、環境ボランティア活動の活性化策提案を目指す。

2. 仮説

古典的だが、代表的なリーダーシップ研究として三隅のPM 理論が挙げられる。三隅ら(1978)[3]に基づき、本稿では、リーダーシップを「集団目標の達成に向けて、チームの力を凝集し、メンバーたちが自発的に協力させる過程」とする。本研究では、リーダーシップのタイプとしては、(M）関係重視型リーダーシップと（P）強制型リーダーシップを想定した。M型リーダーシップは、情緒面から環境ボランティア団体メンバーの人間関係や、メンバーの気持ちをケアするため、自団体への帰属意識を高めると考えられる。一方、P型リーダーシップは権力や圧力といった強制力によって目標達成をするため、自団体への愛着が薄まると考えられる。

3. 方法

仙台市に登録している環境ボランティア団体に質問紙調査を行った。環境ボランティア活動への参加人数が 20 人以上の企業のうち、最近の清掃活動実績を持つ 18 社を選び、一社当たり 15 通、合計 270 通の調査票を郵送した。民間非営利団体については、18 団体を選

キーワード：環境ボランティア　リーダーシップ 継続意図
連絡先：東北大学川内　022-795-4689

定し、一団体に 15 通、合計 270 通を郵送した。さらに、民間非営利団体の活動現場に行き、直接 43 通の調査票を配布・回収した。その結果、合計 580 部を配布し、有効回答 174 部を回収した（有効回答回収率 29.8%）。回答者は、男性 116 人（67%）、女性は 57 人（33%）であった。また、回答者の平均年齢は 47.93 歳（SD13.367、最高齢 85 歳、最年少 20 歳）であった。

4. 結果

因子分析により、リーダーシップ・タイプを抽出した後、それが環境ボランティア活動に与える影響を分析した（図１）。その結果、リーダーシップ・タイプは、「ポジティブ感情」、「信頼感」「自己効力感」、「スキルアップ」を通じて環境ボランティアへの継続意図を高めることが分かった。一方、P 型リーダーシップは「自己効力感」、「スキルアップ」に負の影響を与えることを通じて継続意図に影響を与えることが分かった。また、環境ボランティア活動への責任感の高さによる継続意図が異なると考えられる。従って、調査対象者が高責任感群と低責任感群を二つ分けて検討した。特に責任感が高い人にとって（図２）、M 型リーダーシップは「組織への愛着」、「自己効力感」、「ポジティブ感情」に正の影響を与えることを通じて継続意図に影響を与えることが分かった。全体的に見ると、責任感の高さとは関係なく一番効果があるリーダーシップ・タイプは人間関係重視型リーダーシップであった。その一方、環境ボランティア活動の継続意図を高めることに関しては、強制型リーダーシップの効果がない。

従って、目標の達成より人間関係の重視の方がより重要であることが言える。つまり、環境ボランティア活動の継続意図を促進や活性化のためには、M型リーダーシップの存在が重要であることが分かった。

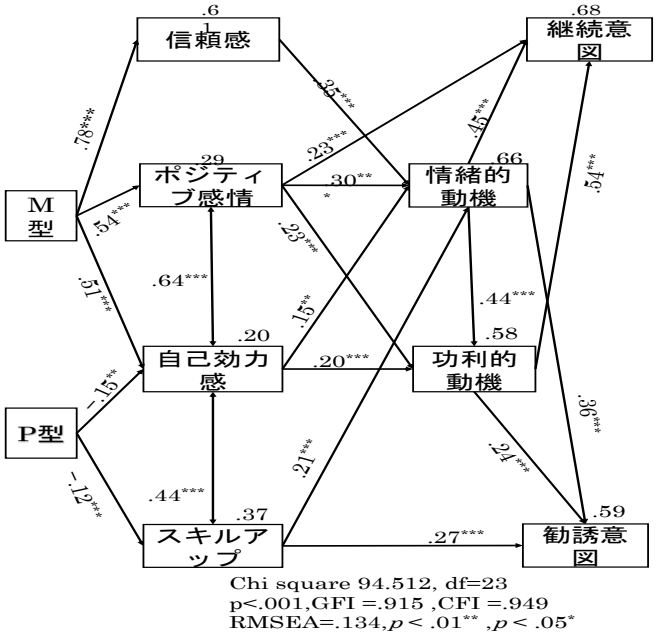

図１　全体の構成図（n=174）

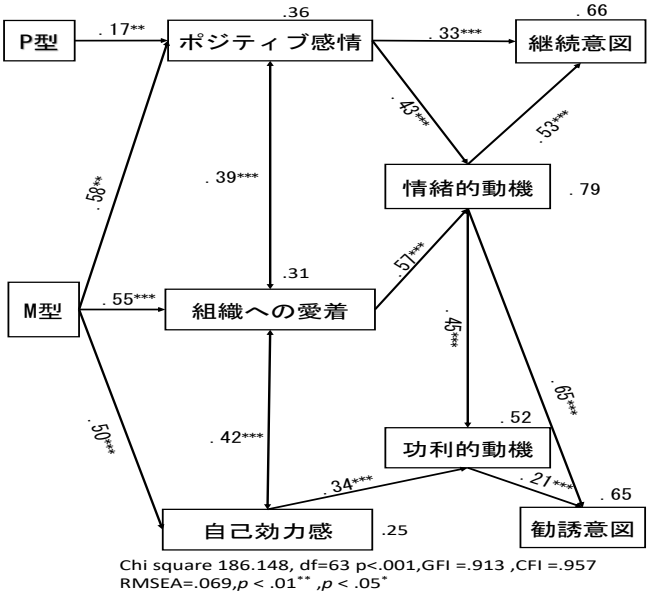

図 2 高責任感群のモデル（n=68）

5. 参考文献

1 Hopper, J. R. & Nielsen, J.M (1991), “Recycling as al truistic behavior: Normative and behavioral strategies to expand participation in community recycling program”, Environment and Behavior, No.2vol.23, pp.195-220.

2 Pearce, C. L. and H. P. Sims, Jr. (2002), “Vertical Versus Shared Leadership as Predictors of the Effectiveness of Change Management Teams: An Examination of Aver- sive, Directive, Transactional, Transformational, and Empowering Leader Behaviors”, Group Dynamics, Vol. 6, pp. 172-197.

３三隅 二不二(1978)、『リーダーシップ行動の科学』、有斐閣出版、pp.69-118.

キーワード：環境ボランティア　リーダーシップ 継続意図
連絡先：東北大学川内　022-795-4689